

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福社会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成23年 3月 第121号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

変化の兆しが確実に見えてきました

現在の日本の高齢者が最期を迎える平均的な姿として、全死亡者の83%が、30日少々を入院して病院で死亡を診断されています。介護保険に7.9兆円を給付する一方で、最期が近づくと入院し、前期高齢者医療に5.3兆円、後期高齢者医療に11.4兆円が給付されています。

高齢者介護の現場では永く、死を避ける努力が最大限に求められ、救命・延命の処置を何よりも優先してきました。救急車で病院へ搬送する事を最善とし、搬送せずの様子を見ていた場合の的確性について鋭く論証が求められ、多くの場面でペナルティが課せられてきました。

重度化して機能が低下し、摂食や嚥下に障害が見られると、胃ろうや気管切開が施され、現在全国で約40万人のお年寄りが、胃ろう患者と言われています。そして、副次的な作用として生じる痰の吸引に、介護職が従事する為の特別処置を講じて、看護師による研修を義務付けしようとしています。介護現場が益々混乱しそうに感じます。

その一方で、確実に現場が変化している様子も強く感じます。特養から救急車で搬送したお年寄りが、救急車の中や、救命処置の最中に亡くなった場合、病院では死因が特定できず、検視扱いとし、警察官と共に死亡を確認する場面が増えてきました。

『この状態でなぜ救急車で搬送するのか理解できない。』『生活の中で死を受止めるべきだと思う。』と、救急医療現場からの真摯な問いかけが聞こえてきます。

最近新聞に、高齢者の胃ろうについての医師の意見やご家族の投書が幾度か載りました。NHKが胃ろうについての特集番組を放映しました。摂食障害児の栄養補給策として開発された胃ろうの技術に関して、高齢者の終末期の生命維持に利用することの是非について、賛否両論があり、疑問視する意見も放映されました。

確実に何か変化している、と最近強く感じます。医療で解決できない老いと死の課題は、医療に委ねず、生活の中の営みとして、介護で支える時が来ました。その為に介護保険が創られました。高齢者の命と引換えに、次の世代が引継ぐべき大切なものが、介護の現場に潜んでいます。高齢者医療に給付されている約17兆円の何割かを、介護と子育てに回せば、確実に社会は変わります。

せいりょう園 渋谷 哲



『東北地方太平洋沖地震』の被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

3月11日午後2時50分頃、壁に吊り下げた小さな絵が、ゆらゆらと揺れていました。夜になって、地震の揺れだと気付きました。遠く離れても、復興を支える日本社会の一員として、何かに役立ちたい、と願います。

せいりょう園 渋谷 哲

～介護・看護職員を募集しています～

- ① 介護職：特養・デイ・ショート・グループホーム・小規模多機能での介護業務
7：00～18：00のうち8時間ローテーション勤務及び、
17：00～翌9：00の夜勤業務
17：00～翌9：00の夜勤専従
- ② 登録ヘルパー（調理得意な方）：主に調理業務
7：00～12：00 12：00～18：00
7：00～16：00 9：00～18：00
- ③ 登録看護師：特別養護老人ホーム、訪問看護ステーションでの看護業務全般
8：45～17：45

給与：経験により加算あります。上記以外の時間でも相談に応じます。

短時間の方も歓迎します。まずは、お電話ください。

(079-421-7156 採用担当まで)

私は、介護の現場で、老いて介護が必要になり死んでいく方に寄り添うことで、命を全うすることの大切さを学ばせていただいています。プロの介護職としても、自分自身を磨くことの出来る場所だと実感しています。

「介護のものさし」があるせいりょう園と一緒に働いてみませんか。是非、せいりょう園にお越しください。お待ちしております。

生活相談員 吉田 知一

せいりょう園 待機者状況 <平成23年 3月9日現在>

- 入所判定済み者 391名 (グループの内訳)
Ⅰグループ…132名 Ⅱグループ…156名 Ⅲグループ…98名
- 入所判定済み者の現在状況
在宅146名／特別養護老人ホーム入所中14名／医療機関入院中116名
老人保健施設入所中85名／ケアハウス入居中5名／グループホーム入居中15名／不明5名
- 辞退その他 他施設入所2名／死去3名

仏教講話より

講師 浄土真宗本願寺派宣能寺 岩本融乗ご住職



デイサービス 谷澤 高明



今月の仏教講話は浄土真宗本願寺派、宣能寺 岩本融乗ご住職。以前に一度来て頂いて今回が2回目である。当年48歳、仏教講話に来て頂くご住職の中ではかなりの若手である。お誕生日がお釈迦さまと同じ4月8日で、「これ私の小さからぬ自慢なんです」と講話の途中で少し得意げに紹介された。講話の冒頭、『南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏……。ミダノホンガンシンズベシ、ホンガンシンズルヒトハミナ、セッシュフシャノリヤクニテ、ムジョウガクヲバサトルナリ』と合掌される。そして前の白板に自ら大きな字で書かれる。

弥陀の本願しんずべし 本願信ずる人はみな 摂取不捨の利益にて 無上覚をばさとるなり

これは親鸞聖人が著した『正像末和讃(しょうぞうまつわさん)』に記されたもので、仏・菩薩さんや教法などを分かりやすく七五調風に句を重ねたもので、親鸞聖人は4句を1章とした。

この和讃で親鸞聖人は、「悲しみや苦しみに沈むしかない私を必ず救うと誓われた阿弥陀様の願いに気付くべきである。阿弥陀様の願いのままに私たちは皆共にお浄土に生まれることが約束されている。この上ない悟りの身にならせて頂き、そして先だっていかれた方ももう一度お浄土で会わせて頂ける」と説かれる。

そしてご住職は「仏教の目的は何でしょう？」と難解な質問をされました。「一言で言うと、『私たちが生きるための知恵を持つ』ことだと思います。私たちがこれからも必ず経験する『苦しみ』は何でしょう？ 私は現在48歳です。皆様から見れば若いですが、もっと若くして亡くなられた多くの人を思うと50歳近くまで生かさせて頂いた

のは有難いと思わねばなりません。しかし、誰にも『老い』・『病い』・『死』に対する苦しみはあります。この苦しみの解決をしていくのが仏教です。

ここから、一休和尚の話をされる。一休和尚が京都・大覚寺の住職の頃の話。ある日、和尚は小僧さんを連れてお檀家の法事に出かけた。途中ウナギ屋の前で、あまりの良い匂いにしばし時を忘れる。隣で小僧さんも立ち尽くす。これはいかんと急いで法事に駆けつける。しっかりお経をあげ、おつとめをする。しかし小僧さんはウナギの香りが忘れられなくておつとめどころではなかった。お寺に帰る。小僧さんはいつもの通り夕飯の支度にとりかかる。しかし、ウナギのことが頭から離れなくて、仕事にならない。困り果てた小僧さんは和尚さんに、一度でいいからウナギが食べたいと訴える。和尚さんは「今日はもういいから寝なさい」と言われた。一休和尚は何故こう言われたのか？ 一休和尚はその時起こっているその事に集中し、その時その時を充実して生きることができ方であった。しかし小僧さんはそうはいかない。

我々も一つの事にこだわって、今を生きるという点では生かされきれない。ついつい過去の事にとらわれたり、まだ来ぬ先の事に気をやんで苦しむこともある。ご住職は言われる。「しかし、なかなかそうは生きられない自分だからこそ仏様は救わずにはおられないというお心で私たちに『南無阿弥陀仏』となって呼び続けておられます。その阿弥陀様のお心に気付きましょう、と言われているのがこの正像末和讃(しょうぞうまつわさん)のお示しされているところです。」

高邁な教えを平易な言葉、例えで分かりやすく講話頂きました。有難うございました。

K. Hさんの看取りについて

従来型特養介護副主任

曾我部 成生

K. Hさんはデイサービス、ショートステイと経由して入所された方で、普段はとても穏やかな方でどの方からも親しまれている方でした。入所当初の夜間ではトイレの希望がよくあり、自身でトイレを探そうとベッドから降りることを繰り返しておられましたが、ケガをしないようにベッドから上手く滑り降りるという技をもっていた方で、家族もよく心配をして面会にこまめに来ておられました。

また、デイサービス、ショートステイ利用の頃は食事を食べてもらえないと皆で様々な工夫をした方で、職員もKさんに食べてもらいたいと色々な食事内容の意見を出し合って食べられる環境を整えていつの間にか一番食事を楽しみにして他の方の食事まで食べようとしてしまわれる意欲が戻ってきた方なのでとても印象に残っています。

もう一つ入所されてから印象的なのは下剤を服用した翌日の生活の中で反応便と共に意識がなくなったりする方であったので、日々職員の緊急対応などの経験をもたしていただいた方でもありました。

家族もとても協力的で必ず週に2回以上キーパーソンの娘さんが面会に来てはKさんとの時間を大切にしてくださいました。また、入所してからも年末は自宅へ外泊し、各行事ごとには付き添い、一緒に食事を楽しまれたりと、K・Hさんに一生懸命なご家族でした。そんなKさんの家族と共に日々の生活を援助させて頂くようになり、日々の生活以外でも園の行事で花見、夏祭り、クリスマス会、運動会、ハロウィンパーティと一つ一つ大切な時間を家族とK氏共に過ごしてもらいました。その時の写真に残っている家族や職員と一緒にピースして笑っているKさんを今もよく覚えています。そんな生活の中でKさんは徐々に徐々に体力も落ち、ターミナル宣告を受けるまでに高熱が出ては下がり方を繰り返すようになり、ベッドから車イス、サロン等離床する事も出来ずにベッド上で過ごすようになりました。一番の楽しみであった食事でもムセながらも自分の好みの物だけは食べておられましたが、好みの物も食せない誤嚥性肺炎状態になり高熱もピークを迎えた10月半ば以降には抗生剤の注射も効かなくなりました。

10月31日に家族付き添いのもとで嘱託医よりターミナル告知を受けてから、11月1日に特養では初めの点滴で皮下持続点滴という24時間点滴して皮膚から吸収するという事が始まりました。点滴する事になった理由としては回復する可能性があり、家族の希望もあったので行っていく事となりました。しかし、回復するきざしはなく皮膚からの吸収がままならなくなり、皮下点滴を右足、左足と交互に行うものの浮腫がひどく全身もおくお状態となっていきました。食事の再開もなく、口が渇く為、職員は家族のいない間は口腔内を本人の好みの物で湿らす対応をしていたが、口を閉ざす力はしっかりとあったので口の中の保清も行う中で口角が切れてしまい、上顎が乾燥した痰と共に保清すると出血してしまうようになりました。また、皮膚も弱くなりオムツにこすれる程度で広範囲の内出血が出来てしまいました。

途中より、この点滴は安楽の為の普通の点滴ではなく、延命の治療ではないかとも思えるようになりました。普通の点滴なら血管が脆くなり入らなくなれば、点滴を中止して最期ま

で家族、職員で身の周りで行える援助を行い看取る形でしたが、今回の皮下持続点滴は皮膚の下の組織に入る為、亡くなるまで入っていました。その為入浴する事も出来ない所以身体の保清も保てない日々であった事が今でも心に残っています。

しかし家族はターミナル宣告を受けとめつつ受けとめきれずの状態であり、キーパーソンの娘さんとそのお兄さんとは最期の看取りの形が統一出来ていなかったのだが、次第にバラバラであった家族が一つになり、亡くなる事実を受けとめ始め、亡くなられるまで毎日家族交代で夜以外面会に来ては職員と共に足浴、全身清拭、爪切り、口腔保清と協力的に「おじいさんには少しでも苦しまず、痛みのない最期にしてあげたい」としておられました。表面的に見ている職員には延命とを感じる時間ではあったのだが、家族にとってのK. Hさんという一人の人の死を受け入れるのにとっても大切な時間になったとは思いました。

12月12日を迎えた深夜0時より呼吸が努力呼吸になり、キーパーソンの娘さんに連絡すると深夜であったにも関わらず大勢の家族が集まりました。3時には血圧がとれなくなり、頸動脈の確認のみで4時に下顎呼吸となり4時35分呼吸停止されました。3時の段階で家族が「このままそっと逝かせてあげたいので家族でしっかり看取ります」と言われて、4時35分呼吸停止の際に職員が確認しようとお本人に声をかけ意識、呼吸を確認しようとするも「もう呼ばないであげてください。もう充分がんばったのでこれ以上はそっとしてあげてやってください。ありがとうございました」と言われた時に、今回の皮下点滴という物がKさんには肉体的に負担はあったかも知れないが、家族と生きたその人の人生を全うされ家族も死を受け入れた、とても良い看取りと思いました。死後の処置も積極的に息子さんが介護職と一緒にいき、処置の際全身にあった浮腫、チアノーゼもすっとひいて亡くなられた顔もとても穏やかできれいでした。通夜、告別式では家族はせいりょう園に対してとても感謝しておられ、「家族が一丸となって父を見送れた事はせいりょう園と父や私たちを支えてくれたスタッフ、看護婦さん、園長のおかげです。ありがとうございました」とお言葉を頂き、利用者だけのケアでなく家族を含めた看取りケアを今後もこのせいりょう園で継続し、日々の生活の中で過ごす方々を最期までその人らしい人生を送ってもらえる介護をつなげていきたいと思いました。

せいりょう園 毎週の行事

月曜日	のびのびルーム (自彊術)
火曜日	のびのびルーム (映画会)
水曜日	のびのびルーム (カラオケ) 音楽療法 自彊術療法
木曜日	のびのびルーム (自彊術)
金曜日	ピア/教室 陶芸教室 造形教室
第2火曜日	折り紙教室
第1・3火曜日	書道教室
第2・4水曜日	お話グループ・福寿草の会

せいりょう園 4月の行事予定

4月 2日(土)	園長との懇談
4月 4日(月)	共生の会・仏教講話
4月 9日(土)	お花見
4月18日(月)	美容の日(従来型)
4月20日(水)	昼食会(お好み焼き) 美容の日(ユニット型)
4月22日(金)	介護についてみんなで語ろう会
4月25日(月)	理容の日
4月29日(金)	郷土料理(かつめし)



介護についてみんなで語ろう会

テーマ「排泄について」 2月25日（金）

せりりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

老人ホームの入所申し込みの相談を受けている中で、自宅の介護で困っていることに排泄をあげる方がたくさんいらっしゃいます。

食事、入浴、排泄については私たちが人間らしく生きて行く為に必要なことですが、そこにかかる介護の時間や介護者の負担があると思います。尿や便の処理がどうしても出来ない方やオムツの交換が上手く出来ない方など、困りごとは様々のようです。排泄のことはデリケートな部分でもあるので、聞きにくいこともあるかと思います。

今回の介護について語ろう会では介護の専門職の視点から見た排泄のことを幅広くお話しさせていただきました。

排泄は体のバロメーター

排便、排尿は私たちの体の異変を知らせる重要な判断材料にもなります。便や尿が出ていなかったり、形や色などからその人の体の状態を知ることが出来ます。

○尿が出ていない時

高齢者の場合は水分を摂取出来ていないことが多い為、尿量が少ない場合は、水分をこまめに摂るようにした方が良いといえます。排尿がない期間が長い場合は、尿路感染症などの病気や尿を生成する腎臓の機能に問題があるかもしれません。

尿は、一般的に汚いものと思われがちですが、血液をろ過して造られるため、腎臓が健康な場合は排泄までは無菌です。高齢者が一日に生成する尿は1100～1200ccで一回の排尿量は平均100～150ccだそうです。

○便が出ていない時

所謂、便秘のことです。ちなみに日本内科学会の定義では、排便が三日以上無い場合を便秘としているそうです。毎日便が出なければならない、と考える方もいらっしゃいますが、排便間隔は体質、環境などにより個人差があります。高齢者の場合はちょっとした環境の変化で便秘になることもあります。食物や食物繊維の摂取が不十分な場合や薬の副作用も考えられます。心配事や環境などによる精神的なストレスを受けている場合に、便秘や下痢などの症状に影響があるようです。

自覚症状として、腹痛、吐き気、残便感、膨満感、食欲不振、めまいなどをともなう場合があります。認知症を患っている方の場合は、徘徊や被害妄想などの周辺症状に影響がある、と言われてています。

便秘と認知症について

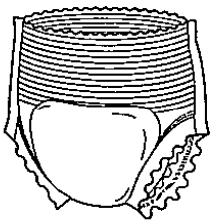
便秘が認知症の周辺症状である徘徊や被害妄想の症状と深く関わっている、といわれています。NHK で放送されていた「なるほど納得介護」でそのことが詳しく紹介されており、映像を皆さんに観ていただきました。

映像の中では、便秘の時期と徘徊などの症状が強くなる時期とが関連していることが排便周期から分かることが紹介されていました。さらに、食事を食べずに遊んでしまったり、お腹をさすったりするなどのその人固有の排便の「サイン」に気づくことで、本人の排便をスムーズに促せることが分かりました。

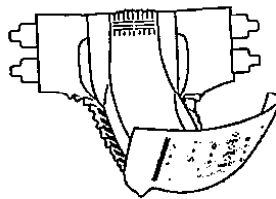
オムツの種類

紙オムツ、紙パンツ、尿取りパッドなどを総称して紙オムツといわれているようですが、それぞれ状況に応じて上手に組み合わせて使えば快適に過ごせて介護者の負担も軽くなります。

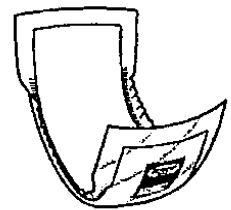
例えば、紙パンツは下着感覚で使えて、軽い尿もれ程度なら尿パッドを中に当てるだけですみます。外出等での失禁の不安も解消できます。また、寝たきりの方で尿量が多く、夜間何度もオムツ交換が必要な方は、吸収量の多い尿パッド、フラットタイプのパッドをオムツの中に当てることで気持ちよく就寝出来ます。



・紙パンツ



・紙オムツ



・尿取りパッド

オムツ交換の実演

要介護者役を私が、介護者役を職員 of 川西が担当し、オムツ交換の実演をしました。

オムツ交換のポイント

○まずは声かけから

いきなり何も言わずにオムツを換えるのではなく、声かけを行いコミュニケーションをとり安心してもらう。

○本人の持っている力を利用する

声かけを行い、腰を浮かしてもらったり、手すりを持ち横を向いてもらう、など手助けをしてもらうことで本人の力を利用する。

○パッドを入れ過ぎると尿漏れになる

尿量の多い方はテープタイプのオムツの中にパッドタイプのパッドを入れる場合があります。その場合、何枚も入れてしまうと隙間が出来てしまい尿漏れの原因にもなります。

○温かい清拭タオルで拭きましょう

排泄の後に冷たい清拭タオルで拭かれるとびっくりしてしまいます。温かい清拭タオルの作り方は、タオルを濡らしてしぼり、ビニール袋に入れて電子レンジで1分温めると温かい清拭タオルが出来上がります。自分の肌で温かさを確認した後で使用しましょう。

感想

「介護が必要になる」ということは自然なことではありますが、本人、家族にとっては向き合わなければならないことでもあります。介護に負担を感じ悩んでいることは、環境の問題だけではなく、介護者の心の動きや葛藤が関係していることが勿論あると思います。特に尿や便の排泄が上手くいかなくなるということは、高齢になれば自然なことですが、好んで尿や便の処理をしようとは思わないですし苦手な方もいらっしゃいます。もし排泄のことで悩み介護を続けていく自信がなくなっている方がいらっしゃれば、私は介護の専門職として応援したい、という気持ちになります。私たちが知っている、知識や方法を知っていただく、もしくは投げかけることで「なるほど、そうか!」と置いていただければ幸いです。

今回、参加されていた方の中に「最近のオムツは吸収量が多く何度も換えなくていいようになっているけど、介護する側にとって良いオムツであって、本人にとっては良くないのでは?」と聞かれた方がいらっしゃいました。確かに、本人の立場になれば肌触りが良くなっているとはいえ、夜間帯など尿を吸収したままのオムツを着用していることを不快に感じる方もいらっしゃるかもしれません。では、不快に思わないオムツなんてあるのでしょうか?本人にとって良いオムツとは何でしょうか?

オムツなんて誰もしたくないのだと思います。いつまでもオムツをせずに来るだけ、トイレで自分の力で排泄したいと誰もが願っているのではないのでしょうか。しかし、排泄のタイミングと関係なく、何度も起こされ、トイレに座らされ寒い思いをすることは、安眠を妨げることにもなります。絶対にトイレで排泄しなければいけないのではなく、その人の思い、体の状態よって排泄の方法を見極め臨機応変に対応することが良いのではないか、と思います。

ケアハウス等空き情報

<平成23年 3月14日現在>

《ケアハウス》

- | | | | |
|-------------|----------|-------------|----------|
| ・ 恵泉 | : 1人部屋若干 | ・ 第二ケアハウス恵泉 | : 1人部屋若干 |
| | : 2人部屋若干 | ・ キャッセル真和 | : 1人部屋1室 |
| ・ 青山苑 | : 1人部屋2室 | ・ シガゴ 御津 | : 1人部屋3室 |
| | : 2人部屋1室 | ・ あさなぎ | : 1人部屋2室 |
| ・ ケアハウスアゼリア | : 1人部屋5室 | ・ ウルビソグ はりま | : 1人部屋1室 |
| | : 2人部屋5室 | ・ むれさき苑 | : 1人部屋1室 |

《グループホーム》 せいりょう園 2室

《バリアフリーマンション》 リバティかこがわ 1室

[問合せ先] せいりょう園介護相談室 TEL(079)421-7156/(079)424-3433